

What?

Why?



所長 山本の

ワイズリレーインタビュー

第25回 株式会社アイオー精密の代表取締役社長 鬼柳一宏さんに聞きました!

世界のもの作りを支える。1個のねじから装置一式までを社内一貫生産で迅速供給。

Q まずは、業務内容を教えてください。

鬼柳 金属部品の加工業です。産業用ロボットの部品をはじめ、工場の中で製品を作るために使われる設備 (FA 装置) などを作っています。様々な材料を準備して、精密切削や研削、熱処理、表面処理などの金属加工を社内一貫生産体制で行っています。ねじ1個からのオーダーも可能で、多品種・少数・高品質の精密パーツ供給体制を整えています。

Q 社長は何代目ですか?

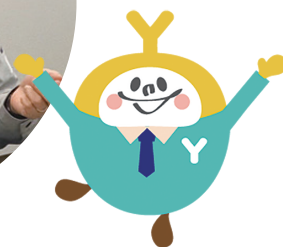
鬼柳 創業は1977年で、会長である父と友人の2人で始めた会社です。私は2代目で、創業当初は農家の納屋をかりて始めていたので、私にとってそこは遊び場でした。大学で東京に出て、就職活動の時に大きな会社で自分のことを試してみたいと思いました。そこで卒業後に都市銀行に入って法人融資や本部の融資審査などを担当し、10年経つくらいで岩手に戻ってきました。金属の加工はこの会社に入ってから皆さんに教わりました。

Q 他社とは違ったセールスポイントを教えてください。

鬼柳 ビジネスモデルは変種変量生産で、オーダーメイドの金属部品に対応している会社としては、我々が知る限り、日本の中で規模は最大級だと思っています。オーダーメイドの部品加工は、どちらかというと町工場さんでやっていた仕事です。金属を削る工場や熱処理屋さんやメッキ屋さんなど、町の中で図面を回すことによって1つの製品が完成するという、地域でもの作りをしているスタイルです。ただ、岩手で同じような商売の仕方をやろうと思っても、東京のように効率よくできないので社内一貫体制を選びました。もともと何でもできる会社ではなかったのですが、お客さんが要求する形や納期を実現しようと思うと、全部社内ですべての設備を揃える必要が出てきて、その結果として今の体制になりました。近所の加工屋よりも岩手のアイオーに頼んだ方が早くできるし、一社の中で完結するので安く作ってくれるという評価をいただき、全国各地からお仕事をいただけるようになりました。そして、最近はデジタル化の動きを強めています。当社は各工場の自動化を支える会社ですが、自分自身の仕事自体は自動化しづらい仕事です。なので、お客さんの自動化に関わる仕事をしておきながら、自分たちの会社はすごく遅れていたんです。ここ最近、デジタル技術が使いやすくなっていて、今まで人でしかできない仕事も今はシステム化できるようになってきました。



毎朝8時10分からの朝礼で訓話を欠かさない鬼柳さん。「ニュースや事例を用いて会社の考えを喋っています。私の言葉も鍛えられますし、聞く側は人によって腹に落ちる事例が違うので、語る場面をたくさん作って、会社のベクトルを共有しています」。



Q どのようなところをデジタル化していますか?

鬼柳 受注の仕組みもありますし、製造現場では製造指示書を作りますが、デジタルで受注を受けたら自動的にプリントアウトされて現場に配れるようになりました。配った後、どのように作ればお客さんの納期に間に合って、生産性も高い状況で加工を進められるのかというのは現場の人間で考えています。ただ、それもデジタル化できるようシステム開発をしているところです。受注から生産に取り掛かるまでの間はまだまだ人手がかかっているので、そこにノウハウや経験があるので人じゃなきゃできなかったのですが、ある程度法則ができてくればデジタル化はできます。今後、物流が便利になると国と国との距離感が縮まり、中国や台湾の加工屋もライバルになってくるので、もっともっと効率よくできるやり方を突き詰めていく必要性を感じています。常に先手で、いろんな情報を集めてきて知恵を出し合っています。

Q 今後のライバルはどういうところになりますか?

鬼柳 今は、アメリカではもの作り関連のソフトウェア作りに長けた会社が工場も自分たちで持つようになっています。そうすると、システムやソフトウェアの会社もライバルになりうると思います。ライバルでもあり、うまく組むことができれば仲間になりうるので、もの作りの世界も単純ではなくなってきましたね。

Q 社内一貫生産は昔からですか?

鬼柳 最初は金属を削る旋盤加工が専門の会社で、限られた設備で

Monthly
Person



株式会社アイオー精密
代表取締役社長

鬼柳 一宏 (おにやなぎ・かずひろ)

1969年、花巻市生まれ。明治大学政治経済学部を経て、都市銀行に就職。約10年間、勤務後、帰郷し現在の会社へ。2017年5月に社長に就任。趣味は居合道。日本刀に魅せられて始め、今は京都での演武や試合に出ることも。全国でも有名な盛岡の刀鍛冶に作ってもらった刀で心身を鍛えている。



(下)歴史が詰まった会社のロゴと一緒に。(左)製品例の一部。日本各地、海外からも毎日注文が入り、社内一貫生産で世界のもの作りの現場を支えています。



高源精麦株式会社 代表取締役社長 高橋 誠 さんからのご紹介



やれることも限られていました。ただ「これしかできないのでこれだけやります」と言っても、お客さんはいちいち選んで仕事を出してくれるわけではないので、父は理系人間ですが商売のある人で、設備がなくても何でもやりますと言って仕事を受けていたんです。その結果、設備が増えて、ある程度のところは自社で完結できるまでになりました。ある時、大量生産に見切りをつけて、変種変量に切り替えましたが、今はポリウムもまとまってきたので、お客さんから見ればオーダーメイドのものを1個、2個と頼んでいるのですが、我々から見ると似たような形状で似たような設備が必要な注文が全国から集まってきているという形になっています。それを上手に仕分けすることで、変種変量でありながら量産でできる仕事の組み方ができるようになっています。

Q 社員教育の工夫はされていますか？

鬼柳 変種変量生産に切り替えたタイミングは社員数50人くらいの時で今は530人ですが、かつては社員一人一人が会社への参画意識が強かったと思います。ただ、創業期の頃を語っても仕方がないところがあるので、人として外してはいけないことに関しては共有できる状況を作っています。仕事初めの日には、全社員を集めて経営計画発表会をします。経営方針だけでなく、アイオー精密の社員として求められている姿勢を共有する場になっています。また、毎日の朝礼で話したことが東京、神戸、中国にいる社員に配信されて、鮮度の高い状態で共有できるようにしています。会社の規模が大きくなるとベクトルが合わせづらくなるので、やれる限りのことは色々進めています。

Q 社名の由来は？

鬼柳 苗字の鬼柳から「O」、「I」は友人の方のイニシャルで「IO」になり、精密加工をするので「アイオー精密」という名前になりました。ただ会社のロゴは「AIO」になっています。有限会社から始めたのですが、後に株式会社になる時、取締役が3人必要で、そこでもう一人の方のイニシャルがたまたま「A」だったので、ロゴは「AIO」になっています。

Q この仕事の魅力はどこに感じていますか？

鬼柳 前職が銀行員だったのでより強く思いますが、自分たちがやったことが形になるので達成感がシンプルに感じられることです。作っているものは最終製品ではないので、お店に並ぶことではないのですが、様々なお客さんと関わらせてもらえることも魅力です。例えば iPhone だと生産設備に関わる部品のお仕事をいただくの

で、ごく一部ですが、自分たちが関わっているというのはおもしろいですね。それと、どんどん挑戦していこうという社風なので、海外も含めて新しいことへのチャレンジや新しいマーケットの開拓ができます。意欲がある人はここにいて可能性や面白みを感じられる環境になっています。

Q 会社としての目標を教えてください。

鬼柳 IoT や AI をもの作りの現場でも活用していく世界になるので、まずはデジタル技術を取り込んだもの作りのやり方を進化させていきたいです。それと、岩手でもの作りを続けていこうと思うと、ここで生まれ育った子どもが地元で働いて、社会人として成長し、地元で生活を豊かにしていくサイクルが回る必要があります。東京に行かなくても、キャッシュフローベースだと東京で生活するとそんなに変わらないような生活を提供できる会社になっていきたいですね。ここに人が残り、人が育つ。地域活性化の役割を果たしていきたいです。

Q 個人としての目標を教えてください。

鬼柳 従業員もお客様もうちの会社に関わる人々が豊かになっていく状況を作りたいです。あくまでもそこが最優先ですが、家庭も趣味も充実させたいです。仕事以外のところも充実させることによって、仕事でプラスになると感じることもあるので。

Q 最後に好きなタイプの芸能人を教えてください！

鬼柳 気になる方は北川景子さんです。大学の後輩ですが、私が学生の頃、明治大学はバンカラのイメージが強くて、クラス50人中、女性は3人しかいませんでした。そういう大学にもあんな美しい女性がたくさん来る世の中に変わったんだと感じますね。

◎ 本日はお忙しいところありがとうございました。

2016年12月に竣工した新社屋。岩手のもの作りを支える人材が育っています。



株式会社アイオー精密

本社 花巻市東十二丁目 17-1-1

☎ 0198-22-4330 <https://www.aio-precision.co.jp>